



RKB毎日放送  
今日感テレビ  
(3月25日放送)



FBS福岡放送  
めんたいワイド  
(3月26日放送)



FBS福岡放送  
NEWS 5 ちゃん  
(5月19日放送)



NHK福岡放送局  
ふっくTV  
(8月4日放送)

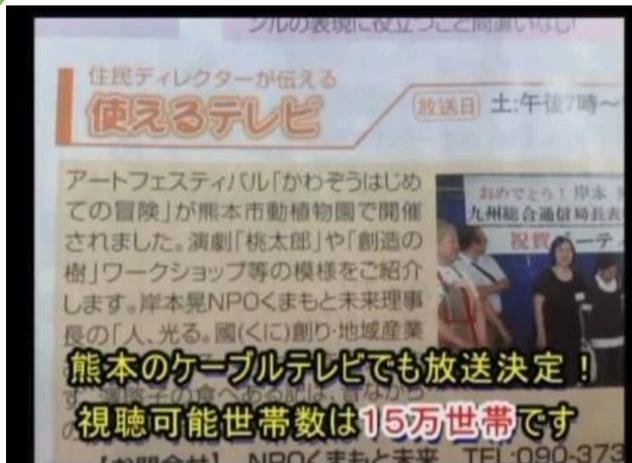




NHKはっけんテレビ  
(12月20日放送)



NHK NEWS 九州  
(12月20日放送)



JCN熊本  
使えるテレビ



小郡・筑前・大刀洗ケーブルテレビ  
ケーブルレッジニュース  
(7月16日放送)



NHKラジオ第一  
「DJ日本史」  
(10月27日放送)



ラジオ  
はっけんテレビ

ラジオ第一  
おはよう九州沖縄  
(5月3日放送)



# インターネット中継で松代PR

インターネットを通じた生中継で松代地区をPRする松代テレビ局のメンバーたち



## 住民、大河ドラマを機会に

松代藩初代藩主真田信之の勇で、戦国武将真田幸村の生涯を描く2016年のNHK大河ドラマ「真田丸」をPRしようと、地域の問題をインターネットを通じて発信する「松代テレビ局」を運営する福岡県東峰村で、番組「官兵衛で國創り」を放送する村営ケーブルテレビの呼び掛けに応じた。番組はドラマの背景となった地域の歴史や文化などを取材し、全国の官兵衛ゆかりの地に生放送している。

この日は、岩手、東京、兵庫、愛媛、福岡、熊本各都県のケーブルテレビなどとインターネットを通じて結んだ。松代テレビ局の運営メンバーは、「松代まち歩きセンター」を拠点に若い人たちを取り込み、ノウハウを真田丸に生かそうと研究中心と活動を紹介。来年の大河ドラマ「花燃ゆ」に登場する幕末の思想家吉田松陰には、松代藩士の佐久間象山が師として関わっていると説明した。

松代テレビ局は2010年に発足し、10人ほどが中心となって運営。地元でまちづくりに関わる人らを松代まち歩きセンター内のスタジオに迎え、地域への思いなどをインタビューする番組「しゃべくり松代」を生中継し、ホーム

ページで紹介している。代表の宮坂文雄さん(66)は松代町東条は「松代にとつてまたとないチャンス。精いつばい協力したい」と強調。

大河ドラマを通じたまちおこしに向け、運営への協力を呼び掛けている。問い合わせは松代まち歩きセンター(8026・2855・0070)へ。

## 真田家に関する文書の管理紹介

長野で講演会

長野市公文書館は17日、本年度の講演会を同市箱清水の市城山分室で開き、市立博物館学芸員の原田和彦さんが「真田家文書の特徴について」と題して話した。写真。江戸時代に松代藩を治めた真田家に関する文書の管理の歴史などについて、約50人が聞いた。原田さんは、大切な文書などは鍵付きの箱に入れ、藩主の近くに置いたことなどを紹介。廃藩置県後は廃棄や売却されることもあったが、明治大正期に整理され、現在は真田宝物館(長野市松代町)と国文学研究資料館(東京都立川市)が所蔵していると説明した。



文書ごとに保存年限が決まっていたとされる他藩の事例も示し、「誰がどこで作成したかや、何のために残したかなど、文書の性格を踏まえて歴史を考えるべきだ」とした。市城山分室では、パネル展「未来につなげる文書遺産」も19日まで開いている。土曜休館。

# テレビ60年をたどってVIII

radote@asahi.com

1

第8部は地方編。とびきり  
明るい話から始めよう。  
20日午後8時から「26時間  
テレビ」が放送される。東京  
キー局のことではない。全国  
各地の住民たちが自ら作る映  
像をリレーし、インターネット  
トで生中継をするのだ。  
北は北海道占冠村から南は  
沖縄県宮古島市まで、参加予  
定は33地域。本番までに40く  
らいに増えそうだという。  
中心になっているのは、福  
岡県東峰村。11月9日、現地  
を訪ねた。博多から南へ車で  
約1時間。大分県境にある人

□2350人ほどの山村だ。  
「村民みんなてつくるテレ  
ビ 東峰テレビ局」と看板が  
出ている。村民たちが集まっ  
てきた。出演する人、撮影す  
る人。それぞれ配置につく。  
夜8時45分、NHK大河ド  
ラマ「軍師官兵衛」が終わる  
と、15分の独自番組「官兵衛  
で國創り」が始まった。今回  
のテーマは、黒田藩の御用窯  
だった「高取焼」。朝鮮出兵  
から陶工を連れ帰った逸話が  
大河ドラマとつながる。  
「高取焼宗家の嫁です」。

## 地域つないで26時間生中継



大河ドラマ追走番組「官兵衛で國創り」を放送中の東峰テレビ局のスタジオ。左から岸本晃、仲道由美子、ゲストの高取七絵と佐々木純子＝11月9日、福岡県東峰村、隈元信一撮影

七絵(右)が、先祖の遺品を見  
せて説明する。「奥が深いな  
あ」と、村の歯科医で司会の  
仲道由美子(49)。スタジオに  
笑いが絶えない。  
番組は「軍師官兵衛」の1  
回目から続けてきた。村内は  
ケーブルテレビで流し、村外  
とインターネットでつなぐ  
(<http://www.tohoty.jp>)  
。全国各地からも和気あ  
いあいと映像で参加。最終回  
の「26時間テレビ」が集大成  
というわけだ。  
総合プロデューサーの岸本  
晃は言う。「大河ドラマで地  
元の歴史を掘り起こす。人と  
人、地域と地域をつなごうと  
長年やってきた、一つの到達  
点だと思っています」  
岸本はテレビ放送が始まっ  
た1953年、兵庫県加古川  
市で生まれた。「力道山と隠  
密剣士が原体験でした」。私  
を含む同い年とよく似ている  
が、岸本はちよっと違う。  
「脇役や斬られ役、隅っこ  
にいた人がなぜか気になった  
んですよ。この人の家族はど  
うしているんだろうとか」  
この少年期の感覚を、岸本  
は大人になって思い出す。  
82年、熊本県民テレビの報  
道制作部員に。知事や市長の  
取材に違和感を持ち、県内各  
地をまわった。「田舎にすこ  
い人がいっぱいいて驚いた」  
90年代、住民と共同制作で  
地域おこし番組を放送した  
り、住民手作りのドラマの  
プロデューサーをしたりし  
た。  
「住民ディレクター」。そ  
んな呼び名を思いつく。テレ  
ビ局を辞め、住民参加番組を  
作る会社を設立。熊本県山江  
村での実践から、全国に住民  
ディレクターを広げた。  
ツイッターなどの登場で、  
再び少年体験がよみがえる。  
「テレビでも、見知らぬ人  
との出会いが始まってたん  
ですよね。一方通行の怪物でな  
く、住民みんな使います。  
そんなテレビの時代です」  
岸本には「テレビが地域文  
化を奪ってきた」という思い  
もある。「遠くを見るからテ  
レビジョンだが、遠くを、東  
京を見すぎたのではないか。  
足元を見れば、いろんな発見  
があって面白いのに」

＝敬称略(隈元信一)

# 村の「官兵衛番組」人気

黒田官兵衛が主人公のNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」に合わせ、福岡県東峰村のケーブルテレビ局「東峰テレビ」が放映を始めた独自番組が好評だ。ドラマ後に毎回約15分間、村の史跡などを紹介し、官兵衛ゆかりの地をPR。企画や取材を「住民ライター」の村民が担う手作りの内容がインターネットなどで注目され、他県のケーブルテレビ局からも放映の依頼が相次いでいる。

## 福岡・東峰村のケーブル局

東峰村は人口約2400人。朝鮮出兵の際、官兵衛らが連れてきた陶工が創始した高取焼のほか、約350年続く小石原焼の窯元が約50軒ある焼き物の村だ。

昨年10月、東峰テレビ総合プロデューサーの岸本晃さん(60)が「大河ドラマを村の知名度アップのきっかけにしよう」と番組制作を村民に提案。郷土史家に話を聞いたり、史跡を取材したりして準備し、番組名は「官兵衛で國を創り」にした。

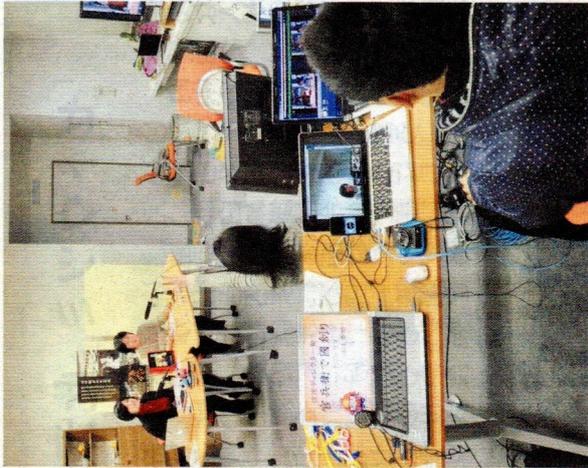
生放送で、出演やカメラ操作などの大半を村民有志が行う。9日の6回目では、学校歯科医の仲道由美子さん(49)

### 村民が企画・取材 ■ 他県からも放映依頼

らが司会を務め、村にある黒田家重臣のものごさる墓を紹介。1、2回目には、高取焼宗家・十三代高取八山さんの妻七絵さん(50)が窯の歴史などを解説し、「焼き物が栄えているのは、官兵衛のおかげかもしれません」と語った。

番組はネットでも生中継され、同局の番組制作に協力している全国の視聴者もネット回線を使って登場。赤い鍋をかぶり、官兵衛に扮して盛り上げる人もおり、司会者と視聴者とのかけ合いも見所の一つだ。2月上旬から熊本市のケーブルテレビ局「JCNくまもと」(約16万世帯)でも放映を開始。岩手や群馬県内の局からも依頼が寄せられているという。

「企画や発信など番組をつくるノウハウは、地域づくりにも通じる。村の活性化になげたい」と岸本さん。番組は大河ドラマ終了まで続く予定。局のホームページで見ることができる。



独自番組の撮影に臨む福岡県東峰村の村民ら(東峰村で)

(12月20日)

東峰村のケーブル局

## 官兵衛テーマに 「26時間テレビ」

今夜8時から

東峰村の村営ケーブルテレビ「東峰テレビ局」は20日午後8時～21日午後10時、福岡藩祖・黒田官兵衛のゆかりの地を紹介する「官兵衛で國創り」を生放送する。村は福岡藩の御用窯だった高取焼や小石原焼の産地で、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放送終了後に毎回15分番組を制作してきた。21日は大河ドラマの最終回。同局は「集大成の番組にしたい」と話す。

15分番組は大河ドラマの放送が始まった1月5日にスタート。住民スタッフ約20人がドラマの感想を語り合ったり、ロケ地を訪ねたりしてきた。20日の番組は、その「26時間版」。官兵衛

の出身地でもある兵庫県・姫路のほか、ネット配信で15分番組を視聴していた「東峰村ファン」が暮らす全国各地の計4カ所から生中継する。「村の豊かな歴史も感じてもらえれば」と、総合プロデューサーの岸本晃さん(61)。当日もネット配信する。ウェブサイト＝<http://www.tohotv.jp/>

## 福津市議選あす告示 20人が立候補を予定

福津市議選(定数18)が21日、告示される。現職14人、元職1人、新人5人の計20人が立候補を予定。党派別では公明2人、共産2人、ふくおか市民政治ネットワーク1人、無所属15人。今回から定数が2減となる。投開票日は28日。

立候補の届け出は、午前8時半～同10時は市立図書館2階、午前10時～午後5



NHK福岡放送局

(放送日 2015年2月14日)

**特別番組**

官兵衛からの贈り物～大河ドラマ「軍師官兵衛」が残したもの～

2月14日（土）総合・九州沖縄地方 午後6:10～6:42



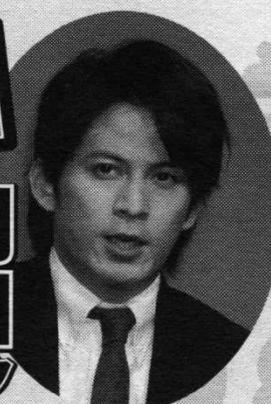
軍師官兵衛が福岡・九州の各地で盛り上がりを見せた2014年。官兵衛のご当地では、歴史・食・紀行ツアーなど、さまざまなジャンルのイベントが催され、地元ケーブルテレビでは、地域住民の手で独自に番組が制作された。そこには、郷土の歴史や文化の魅力を発掘・発信し、地域活性化に動き始めた人々の姿があった。大河ドラマ「軍師官兵衛」総集編の再放送に合わせ、この一年の地域の動きをあらためて振り返る特別番組を放送する。

低視聴率もなんのその、大河ドラマ『軍師官兵衛』といえは、日曜の夜を代表するテレビ番組。その主人公、官兵衛にゆかりのある福岡の村で、大河ドラマの直後に放送される番組があるのです。その内容とは？

「本番テロップ出ます。1カメまで、5秒前！」  
チーフディレクター、星有美子さん(45)のキユーが出ると、緊迫した空気がスタジオに漂う。

毎週日曜日の夜8時45分。NHKの大河ドラマ『軍師官兵衛』が終わると同時に、15分間の生放送番組がスタートする。この番組『官兵衛で國創り』が今、ひそかな人気を呼んでいるのだ。

番組を作るのは、福岡県東峰村の村営ケーブルテレビ「東峰テレビ局」。ケーブルテレビやインターネット経由で放送されている。「官兵衛で國創り」は、東峰村やその近



# 福岡発 おらが村の 岡田もビックリ!?

隣の、黒田官兵衛ゆかりの地を紹介するのがメインの「NHK大河ドラマ追走番組」だ。関ヶ原の戦い後、嫡男・長政とともに筑前52万石に入国した官兵衛は、福岡城を築き、晩年を福岡で過ごした。そのため、福岡県内には、墓所や城跡など、官兵衛ゆかりの地が数多く残っている。この東峰村もそのひとつ。

福岡市中心部から車で約1時間、大分県との県境にある、人口約2千400人の東峰村は、高取焼や小石原焼といった焼き物の里として知られ、約50軒の窯元が集まっている。じつはこの高取焼は、朝鮮出兵の際に官兵衛らが陶工を連れ帰ったことよって、創始されたといわれているのだ。

取材に訪れたこの日、大河ドラマでは第11回「命がけの宴」が放送されていた。豊臣秀吉(竹中直人)が命がけの宴を催して、再び織田信長

(江口洋介)の信頼を得たエピソードや、濱田岳が演じる官兵衛の家臣・栗山善助の恋の行方などがその内容だ。スタジオでは、スタッフがみんなドラマを拝見。ドラマが終わったところで「はい、みなさん、こんばんは。命がけで(私たちも)やりましょう」と、番組が始まった。

東峰テレビ局は、10年11月に開局。熊本の民放勤務を経て、同局の総合プロデューサーに就いた岸本晃さん(60)を中心に、地元の人たち自身が番組の企画、取材を担っている。「官兵衛で國創り」も、専門の技術者もいるが、ほとんどのスタッフは、放送の専門家ではない村民たちだ。

「村民が自分の足で動き、自分の住む土地がどんなところなのか、どんな魅力や課題があるのかなどを自ら知ること、それこそが地域おこしの出発点だと思えます。」住民の、住民による、住民のための「地域づくりができるかどうか」が大切だと思い、番組タイトルを「國創り」としました(岸本さん)

「スイッチャー」と呼ばれる画面の切替え操作を担当するのは、大工をしていた辻富貴男さん(76)。スタジオのテレビ台は、辻さんの手作りだ。また「1カメ」の担当は、元商工団体の職員で、カメラが趣味という利光洋一さん(73)。

とはいえ、仕事への取組み方はプロと変わらない。「生放送は秒単位。カメラの振り方が遅れると、画面の切り替わるタイミングがずれてしまいうので気をつけなさい」と緊張気味に、利光さんはそう話す。

## ハプニングが付きものの生放送!

番組の司会は岸本さんのほか、女性のキャスター2人が担当。ふだんは学校で歯科医をしている仲道由美子さん(49)と、農業を営んでいる梶原京子さん(60)だ。由美子さんは約2年前から、村の番組の司会を手伝うようになった。京子さんは、7年ほど前から岸本さんの元で手ほどき

を受けるようになり、スタッフのなかでもベテランだ。「ほとんどの方が、本業の手が空いた時間に、ボランティアで番組制作に参加されています」(岸本さん)

東峰テレビ局では、こうした村民スタッフを「暮らしの知恵の受発信をして、豊かな生活を創造する人」という意味を込めて「住民ディレクター



スタジオのホワイトボードには、オンエール内容の構成が書かれている

人口2千400人の村のケーブルテレビ局が手作りする大河ドラマ直後の15分枠が全国から引っ張りだこ!



# 「官兵衛道」が「番組」で村をいつく!



この日は当日に放送するVTRの撮影が行われていた



本番のスタジオでは司会の3人の息の合ったやり取りが



スタッフの多くはボランティアの村民たちだ

「と呼んでいる。さて、取材に訪れたこの日、番組は大河ドラマと同じ、第11回を迎えた。この日は「お道との恋は如何に? あれの栗山善助と朝倉」というタイトルで、東峰村の隣にある朝倉市の円清寺を紹介するという内容。円清寺は、栗山善助が官兵衛の菩提を弔うために建立したものだ。

「できるだけ、毎回のドラマの話に沿うような内容を心がけています」(岸本さん)

本番では、京子さんが思わず、あたふたして周囲の笑いを誘う場面や、VTRの音が一瞬、出なくなるといったハプニングも。そういったことはよく起こるのだが、そこは

ご愛嬌。村の人たちが手作りで、一生懸命にやっていることが画面から伝わってきて、むしろ視聴者をほのほのとした気持ちにさせる。

「初めは、官兵衛さんにまったく興味がなかったんですよ(笑)。ところが、こうして番組をやっているうちに、村やその周辺にゆかりの場所がいろいろある、ということがわかって。大河ドラマに取り上げられるような人たちが昔、このあたりで生きていたんだって想像すると、すごく身近に感じられるようになったんです。今ではとても興味があります」(京子さん)

毎回の番組を、楽しみにし

ている村の人も多い。村の農村ツーリズム宿泊施設で働く坂本康子さん(73)もそのひとりだ。夫と息子夫婦、孫3人という7人の大家族で、いつも番組を見ているそう。

「大河ドラマが始まるまで、官兵衛さんと縁のある場所が村にあるなんて知りませんでした。それが、後藤又兵衛さん(官兵衛の家臣。ドラマでは塚本高史が演じる)が通った橋があるとか、高取焼の発祥はこうだったとかを知ると心が豊かになります。よそに行って「うちの村にもこんな場所があるんだよ」って、胸を張って話ができるのがいいですね。それに、孫は知っている人がテレビに出ている

のがうれしいのか「あっ、由美子先生が映ってる!」って喜んでます(笑)」

## 自己紹介は「歯科医の司会です」

先述のとおり、由美子さんの仕事は学校の歯科医。そのため、番組の冒頭では毎回、「歯科医の司会(しかいのしかい)です」と自己紹介する。

「最初、番組を生放送で1年間やると岸本さんから聞いたときは、驚きました(笑)。でも今は「いつも見てるよ、がんばってね」とか「これからは、どんな場所を取り上げるの?」といった声をかけてもらえるようになり、人や地域との絆がだんだんと深まっていくのを、肌で感じていきます。本番は、すごく緊張しています(笑)。いつも打ち合わせどおりのことしか言えないので、もっと自分の言いたいことや、岸本さんのアドリブにもうまく対応していければと」(由美子さん)

本家の「軍師官兵衛」と同様、放送は全50回を予定している。ネットで生中継されて



東峰テレビ局の局舎。診療所だった建物を再利用している

いることから全国に視聴者があり、2月上旬からは熊本市のケーブルテレビ局でも放送が開始されるほどの人気だ。「大河ドラマで福岡が出てくるのはまだだいぶ先ですが、官兵衛ゆかりの地を、住民たちが力を合わせて取材していければ、地域の活性化につながっていくはずですよ。今後は全国にいる村の出身者に協力してもらって、その土地のおすすすめスポットをレポートしてもらおうなど、全国の地域や人を結びつけていきたいと思っています」(岸本さん)

岡田准一クンの活躍だけでなく、こちらの番組からも目が離せなくなりそうです。

住民主役のテレビ番組づくりを实践

# カメラというのは ボタンを押せば映る ほら、簡単でしょ

柿野明子 || 文 text by Aiko Kadena  
下曾山弓子 || 写真 photo by Yumiko Shimozoyama

福岡県東峰村の村営ケーブルテレビ「東峰テレビ」。岸本晃さん(61)は、現在同局で総合プロデューサーを務めている。

テレビが一方からのメディアではなく、双方向メディアに転換することを早くから予見し、「住民ディレクター」なる人材育成を全国に広めてきた人物だ。

住民ディレクターとは、自分たちの伝えたい情報を演出できる能力を持つ市井の人々のこと。岸本さんが発案し、一八年前からそのノウハウを伝え

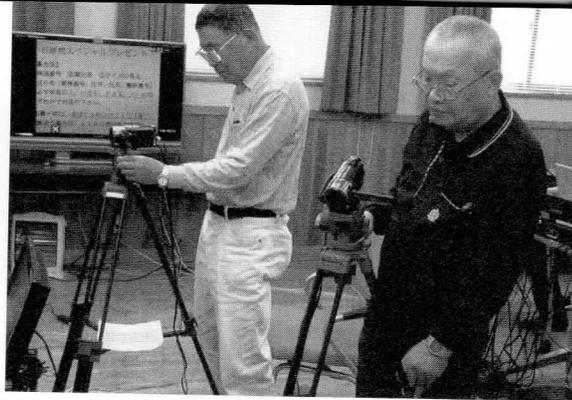
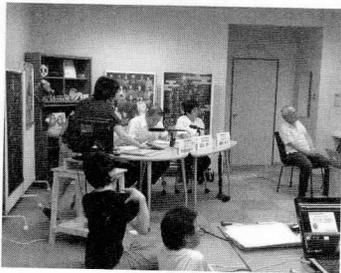
元はバリバリのテレビ局員。思うところがあって、退社した。それから一八年、地域住民自らがテレビ番組制作に参画する「住民ディレクター」を提唱。全国各地で番組づくりをとおした地域再生に取り組んできた。「テレビ」なるものは、農村になにをもたらすのか――。

てきた。これまで全国数十か所を訪れ、うち四〇〜五〇か所に住民ディレクターが定着。農家や主婦たちが、ケーブルテレビやフェイスブックなど多彩なソーシャルメディアを使って地域情報を発信している。

## 岸本 晃さん

福岡県東峰村  
「東峰テレビ」  
総合プロデューサー





### 作る過程に価値がある

東峰テレビ局の建物は、村の診療所だったという二階建て。賃貸だが、機材を含め、約三〇〇万円かけてスタジオに改装した。一階にスタジオや会議室などがあり、二階には寝泊まりするスペースが何室も設けられている。スタジオには二人のスタッフが常勤。ノートパソコンや手持ちのビデオカメラが雑然と並ぶ。これだけで、かつて一億円ほどかかった中継車と同じくらいの機能があるのだそうだ。

「東峰村は人口約二二〇〇人で、県内で唯一ネット環境がゼロだった過疎の村です。八年前にADSL回線を引いたものの、どう使ってよいかわからない、と自分がここに呼ばれたんです」

四年前、国の地上デジタル放送対策で全国の市町村にケーブルテレビをつくることになったとき、村は「滑り込みセーフ」のタイミングで、二〇一〇年に放送スタートすることができた。週二本、合計

一時間の番組を制作し、ケーブルテレビや一部をインターネット経由で放送している。

その核となるのが住民ディレクターだが、そもそもものきつかけは岸本さんがみずから見て歩いた農山漁村にあったという。「約三〇年前、熊本県の民放テレビ局に入社しました。他の局員は、都市圏の情報ばかり追いかけていましたが、わたしは田舎に興味を持った。当時、九八の市町村があつたのですが、これを二周半したとき、この国の抱える問題がみえたのです」

岸本さんは、外部のコンサルタントが、降って湧いたような振興策を打ち出し、それに莫大な予算を投じる地方の現状を目のあたりにした。コンサルタントが作成した分厚い計画書は、どう実行してよいかわからぬまま放置され、数年後にまた新たなコンサルタントがやってくる――。

「外部の人間をうまく使えるディレクターが地域にいないからなんです。外部の人間を自分たちの視点で活用し、なにかを実現したり、表現したりす

るのは、テレビの番組づくりのプロセスと同じなんですよ」

テレビの番組は、まず「なにを伝えたいか」という企画の立案から始まる。次に、それに基づく取材があり、制作、放送という流れをたどる。このプロセスをつかさどる能力の必要性を、岸本さんがもつとも感じたのは、農山漁村に住む人たちであり、農林水産業の分野だった。

「これまで田舎の人たちは、自分を表現するということをしてこなかった。自分たちの伝えたいことを、きちんと形にして発信していくのが住民ディレクターなんです」

### 素人がプロをしのぐ瞬間

岸本さんは、約二〇年前にテレビ局を退社。全国の自治体や地域で、住民ディレクターの養成に乗り出す。

「最初に教えるのは、カメラとというのはボタンを押せば映るということ。ほら、簡単でしょ」

現在、手持ちカメラは二、三万円の手に入る。だが、情報発信には、スマートフォン一台あれば十分。編集作業はたい

### 岸本 晃の視点 その1

なにを伝えたいか、だれにどう見せたいのかがいちばん重要。

それを“自分で考える”。

よその人間にやってもらっても意味がない

## 全国ネットのテレビ局も 最近コンテンツが乏しく、地方の話題を探している。 今がチャンス

へんだから、編集しなくていいように撮影するのがポイントとアドバイスする。

「ただし、なにを伝えたいか、だれにどう見せたいのかがいちばん重要ということだけは、しっかりと教えます。そして、それを自分で考える」ということね。よその人間にやってもらっても意味がない」

テレビや新聞が取材に来て、そのときは盛り上がりつつも、効果はせいぜい二週間ほど。ならば、外部の力を当てにするより、企画と演出の能力を身に付け、自前の受発信力を持つほうが結局は強い、というのが岸本さんの持論だ。

そういう現場では、予想外の効果やハプニングが付きものだ。「住民ディレクターの育成に取り組み始めた頃、自分の釣果を伝えたいという人がいました。ふつう魚が釣れたら、その瞬間をカメラマンがズームするんだけど、自分しかないからカメラは固定で、その人がどうしたかという、釣り上げた魚を持つまま、自分がカメラに近づいていったわけ。今ではよく

ある手法だけど、当時のテレビでそんなカメラワークは見たことがなかった。驚きましたね」

プロがかなわない部分は他にもある。

「わが子を講座に連れてきたお母さんがいて、自己紹介するさいに子どもにカメラを持たせたんです。みんなでその映像を観たとき、お母さんの表情が天使みたいだった。これは、自分子どもにも語りかけているからそうなるわけで、プロのカメラマンが撮影してもこんな顔にはならない。お母さん自身も、わたしこんな表情をしているの!？」と笑」

カメラは対象物だけでなく、撮影している人の状態や、その関係性まで映し出す。だから、多少ぶれたり、かんだりしてもいい。人の心をつかむのは、リアルなのだ。

小学生からお年寄りまで、たくさんのお客がディレクターが作った番組を観て、村の人たちは笑ったり、考えたり。具体的な成果は、これから。それでも村は番組づくりをよりどころに、昔は当たり前のようにあつ

た顔の見える温かなつきあいを取り戻しつつある。それが、住民自治に結びついている。

リアルタイムで情報を伝える手段を持つことは、災害などが起きたときの実状を正しく伝えたり、風評被害を食い止めたりすることにも役立つだろう。農作物ではブランド力の構築にもつながっていくはずだ。

「住民ディレクターは講習を受けて認定されるものではなく、概念だから、だれでもすぐになれます」

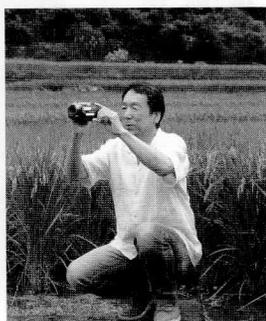
そして、もう一つ。ディレクターの上には、予算をつけたり、管理したりする存在が必要だ。そうしたプロデューサーもめざしてほしい、と岸本さん。つまり、みんなをまとめ、引っばっていく地域リーダーを育成しよう、ということだろう。

「全国ネットのテレビ局も最近コンテンツが乏しく、地方の話題を探している。今がチャンスですよ!」

だからこそ、自分たちでどんな情報発信をする必要があるのだ。もう、ためらっている時代ではない。

### ぎしもと・あきら

熊本県の民放に14年間在籍。記者、ディレクター、プロデューサーをはじめテレビのすべての業務を経験。『ズームイン!!朝!』『24時間テレビ』『11PM』など、日本テレビ系列の全国放送番組や地域応援番組、地域ドラマなどをプロデュース。現在は、「東峰テレビ」の総合プロデューサーを務め、全国30地域を結ぶ生放送の仕組みを独自に開発。これを活用したNHK大河ドラマ『軍師官兵衛』の追走番組『官兵衛で国創り』が全国から注目を浴びている。NPOぐまもと未来理事長、一般社団法人八百万人理事長、総務省地域情報化アドバイザー、株式会社プリズム代表取締役。



# 西日本新聞 (11月30日)



# 西日本新聞 (10月17日)

福岡県東峰村の村営ケーブルテレビ「東峰テレビ局」は16日、東京・渋谷で会見を行い、NHKの大河ドラマ「軍師官兵衛」の最終回(12月14日放送予定)に合わせて、12月13日午後8時から翌14日午後10時まで、26時間番組「官兵衛で國創(くにづく)り」を生放送するとPRした。

東峰テレビはこれまで「官兵衛」終了直後に15分間の生放送番組を放映。かつて黒田家の城があった東峰村でドラマゆかりの土地を村民が巡り、全国各地のケーブ

## ◆「官兵衛」の26時間番組をPR

ルテレビやネット放送局と中継を結んでドラマについて語り合うなど、官兵衛を「追走」してきた。

岸本晃総合プロデューサーは会見で「番組を通じて見えてきた地方同士のつながりから、何かが生まれる放送にしたい」と話した。「國創り」では過去49回の放送を振り返り、軍師官兵衛のチーフプロデューサーも中継出演する予定。番組はネットでも配信する。ウェブサイト=<http://www.tohotv.jp/>

(大矢和世)



◀10月16日の会見の様子



NHK「軍師官兵衛」東峰テレビ「官兵衛で國創り

▲東峰テレビの画面より

# 東峰村(福岡)のケーブル局 NHK大河「連動番組」で地域おこし 12月14日の最終回には26時間生放送を全国中継

福岡県東峰村(福岡)のケーブルテレビ「東峰テレビ」は、毎週日曜日のNHK大河ドラマ『軍師官兵衛』の放送直後に15分の「連動番組」を生放送し、インターネットで全国に放送してきた。そして12月14日の最終回の放送に合わせて26時間の連続生放送を行なう。この番組は、全て「住民ディレクター」により企画制作されている。番組を通じて地域の歴史などを再発見するだけでなく、全国各地のケーブル局や「住民ディレクター」とも連携して、「地域おこし」につながる試みだと注目されている。

## 『官兵衛』にまつわる 地元の話題を毎週生放送

福岡県東峰村は福岡県の東部に位置する人口2350人の過疎の村。このケーブルテレビ「東峰テレビ」は、住民がディレクターになり、番組の企画制作を担当している。

ここでは、今年1月から毎週日曜日の『軍師官兵衛』に合わせて、本放送直後の午

後8時45分から15分間の『住

民ディレクター発！官兵衛で  
國創り〜NHK大河ドラマ追  
走番組〜を生放送してきた。

福岡県は、黒田官兵衛やその家臣らに關係が深く、東峰村だけでなく近隣の各地にゆかりの遺跡や旧跡などが多いことから、大河ドラマに連動して、地元の歴史などを紹介する番組を放送することになったもの。

例えば、今年1月26日放送の第4回では、『軍師官兵衛 福岡プロジェクト』を取り上げた。プロジェクト協議会事務局を務める福岡県の担当者、県全体の「官兵衛戦略」を取材して放送した。大河ドラマによる地域活性化を

考える内容。

3月23日放送の第12回では、官兵衛の菩提寺、福岡市の崇福寺で行なわれた法要を取材。官兵衛はキリシタンでもあったため、仏式とキリスト教式の両方の法要が一緒に行なわれた。住民ディレクターの辻 富貴男さん(77歳)と梶原京子さんが、黒田家16代当主や小川 洋福岡県知事らに突撃インタビューした。

また番組では、全国各地のケーブル局やインターネットテレビ局とも連動して、「官兵衛」をテーマに地域間の連携を進めてきた。  
全国的住民テレビ局をつないで、26時間放送  
そして、12月14日放送の『軍

師官兵衛』最終回に合わせて、13日の午後8時から翌14日の午後10時まで、一挙26時間生放送を行なうことになった。それまでに放送してきた『官兵衛で國創り〜NHK大河ドラマ追走番組〜』の総集編的な性格を持つ。

26時間放送は、過去に放送した49回の番組ダイジェストを縦軸に、各地のケーブル局やインターネットテレビ局の参加(インターネットを利用したり中継)による地域と地域の繋がりを横軸に構成する。

番組は、東峰テレビをキーステーションにして、住田テレビ(岩手)、松代テレビ局(長野)、杉並TV(東京)、佐用チャンネル(兵庫)、愛南リポーターズ(愛媛CATV)、使えるTV(熊本)などの参加が予定されており、NHKの担当者も何らかの形で参加する。

また番組では、『軍師官兵衛』に出演した俳優や制作スタッフ、ゆかりの地関係者などから寄せられたメッセージも紹介する。東峰テレビでの放送だけでなく、インターネットで全国に中継される。

## 地方創生のモデルに!

10月16日に東京渋谷で記者会見が行なわれ、東峰村の渋谷博昭村長は、「官兵衛で地域おこしを」と小さな村から情報発信を続けてきたが、こうした試みが全国各地の地域おこしのヒントになればいいと思う」と話した。

また、総務省地域通信振興課の今川拓郎課長は、「地方創生が重要な政策課題になっている中、今回の試みはICTや映像を使ってどう地域を元気にしていくかを具体化した良い例だ」と述べた。

そして、この企画を進めてきた東峰テレビ総合プロデューサーの岸本晃さんは次のように話した。「この番組により、全国の地域と地域が繋がってきた。日本の代表的コンテンツである大河ドラマと連動して、地域活性化を図る仕組みは、地方創生のモデルの一つになると思う。来年の大河ドラマ「花燃ゆ」と連動して、舞台となる山口県での同様の取り組みを提案させていただいている。地域の住民が主体となりICTを駆使して新しい挑戦をしていきたい」。

毎日新聞  
(12月18日)

## 大河「軍師官兵衛」21日最終回 東峰村が26時間TV



「軍師官兵衛」にちなんだ東峰テレビ局の26時間テレビについて記者会見する岸本総合プロデューサー（左）ら

NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」が21日に最終回を迎えるのに合わせ、東峰村がケーブルテレビ「東峰テレビ局」が26時間テレビを放送する。官兵衛ゆかりの兵庫縣姫路市など全国40カ所をインターネット中継

で結び、街づくりをはじめ各地域の取り組みをレポートする。20日午後5時から、ホームページ (<http://www.tohkyo.tv>) でも視聴できる。

【岸本 由】

東峰村は、松尾城や高取城の城主など黒田官兵衛ゆかりの地として知られる。このため同局はドラマが始まった今年1月から毎回終

了後の15分間、ドラマを「追走」する情報番組「官兵衛で国朝り」を放送してきた。10〜70代の村民が同会やディレクターを担い、高取城の歴史などを担当し、官兵衛ゆかりの土地や人からドラマ出

た後の15分間、ドラマを「追走」する情報番組「官兵衛で国朝り」を放送してきた。10〜70代の村民が同会やディレクターを担い、高取城の歴史などを担当し、官兵衛ゆかりの土地や人からドラマ出

### ゆかりの姫路など 40カ所とネット中継

「軍師官兵衛」にちなんだ東峰テレビ局の26時間テレビについて記者会見する岸本総合プロデューサー（左）ら

続けてきた。

# 西日本新聞 (2014年12月23日朝刊)



26時間放送で黒田官兵衛ゆかりの地を紹介した東峰テレビ局

## 「東峰テレビ」26時間官兵衛一色

東峰村の村営ケーブルテレビ「東峰テレビ局」が、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の最終回に合わせて、全国の黒田官兵衛（如水）ゆかりの地を紹介する特集「官兵衛で國創り」を20日日夜、生放送した。

東峰テレビ局は大河ドラマ

大河最終回に合わせて

マが始まった今年1月5日から、放送終了後に独自の15分番組を放映。住民自らが「住民ディレクター」として企画や取材に携わった。

50回目で「集大成」と位置つけた今回は、20日午後8時から21日午後10時までの26時間、官兵衛の出身地、

### 独自番組50回目「集大成」地域おこしテーマ

兵庫県姫路市をはじめ東京都や九州各県など全国約50カ所と東峰村の放送局を結び、官兵衛をどのように地域おこしに活用したか、各地の特産品などをどうPRしたかなどを報告し合い、あらためて今年の官兵衛ブームを振り返った。

総合プロデューサーの岸本晃さんは「スタッフと出演者のおかげで50回を無事に終えることができた。今回のノウハウを生かし、今後は朝倉地域全体を元気にできる番組をつくりたい」と話した。

番組は23日以降にネット配信する予定。ウェブサイト＝<http://www.tohotv.jp/>  
(中川次郎)

読売新聞  
(12月20日)

# 官兵衛の魅力 26時間



NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」が21日で最終回を迎えるのに合わせ、東峰村のケーブルテレビ局「東峰テレビ」が、20日午後8時から、26時間の特別番組を放送する。全国各地と結んで官兵衛と東峰村の魅力を紹介する予定。「盛りだくさんの内容で放送したい。ネットでも見られるので、多くの人に楽しんでほしい」とPRしている。(大石健一)

## 東峰テレビ 最終回に合わせて特別番組

### きょう午後8時～ 全国から中継 ネット視聴も

特別番組を語る岸本プロデューサー（左から2人目）

東峰村は、黒田家臣団の二十四騎のうち、2人とゆかりがあるほか、豊臣秀吉の朝鮮出兵で黒田家が朝鮮から連れ帰った陶工が高取焼を伝え、今も受け継がれるなど、官兵衛との関係が深い。

このため、東峰テレビは、大河ドラマの放映後に毎回、官兵衛や村の魅力を伝える15分番組「官兵衛で腕振り」を放送。住民がアイコンタクトとなって村の史跡を紹介したり、インターネットで総路や熊本など中継でつないだりして、地域を盛り上げる情報を発信してきた。

特別番組は、20日午後8時から21日午後10時まで。全国各地の中継リポートや、官兵衛のことをじっくり議論するコーナーなどを予定している。

欄外で記者会見した岸本

プロデューサーは、「番と意気込んでいた。組づくりは人材づくり、地域づくりにつながる。特別の特産品などのプレゼントも用意。http://www.tv-hokv.jp/視聴P中心」

